

Ultimo Flooring 施工説明書

1. 概要

- 1) ウルティモフローリングは他のビニール系床材同様、温度の影響を受けやすく特に収縮した状態で施工した場合、後日突き上げなどを起こすことがあります。特に長手方向で7mを超えるロングスパンで施工する場合は、接着剤による床下地への固定、専用見切り部材を使用してクリアランスを確保したうえで施工することを推奨いたします。
理想的な施工温度は18°C～27°Cです。施工前後12～24時間は、下地も含め現場の温度を一定に保ってください。
※ウルティモフローリング本体も箱から出して現場と同様の気温に保管してください。
- 2) 製品の色のばらつきを目立たなくするため、施工の際は数箱を同時に開け、それらをミックスしたうえで施工してください。
- 3) 稀にウルティモフローリングの実部分にキズやひび割れ・破損などがある場合、施工後の伸縮により実部分が外れてしまったり切れてしまう恐れがありますので、施工の際は充分に検品の上施工してください。

※ ご注意

本製品は、低温時には収縮します。
10°C以下の環境での施工及び使用する場合は接着施工をしてください。

2. 床下地について

ウルティモフローリングは“置き床”として施工しますが、普通の床施工と同様により良い施工のためには床下地の準備は非常に大切です。床下地に荒面や不陸がありますと本製品施工後も、表面の凹凸や過度の摩耗を招いてしまう恐れがあります。

A. 木質床下地の場合

- 1) 木製床下地の場合、少なくとも床下に十分な通風スペースが確保されており、また床下も適切な防湿フィルムで覆われていなければいけません。
- 2) 床下地の表面が滑らかでない場合は、下地を平滑にしてから施工を行ってください。

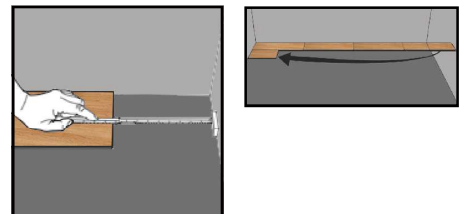
B. コンクリート床下地の場合

- 1) コンクリート床下地は十分に乾燥し、平滑で異物等が無い状態でなければいけません。
- 2) 新しいコンクリートスラブの場合、完全に乾燥させ（少なくとも6週間以上）養生をしてください。本製品の施工は必ずコンクリート床下地の含水率が8%以下であることを確認してから行ってください。
- 3) 寒冷地、冬期に施工をする際は現場を暖めても下地まで暖まりきらない場合があります。その場合は合板を入れる等、下地温度環境の影響を最小限にするようにしてください。
- 4) 床下地が平滑でない場合は、下地を平滑にしてから施工を行ってください。

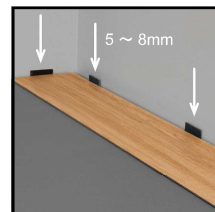
3. 施工について

ウルティモフローリングは“置き床”として施工するように設計されています。床下地へ床板を固定する必要は基本的にありませんが、前述のように7mを超えるロングスパンで施工される場合その限りではありません。
また、過度な重量物等は決して床板の上に取り付けないでください。

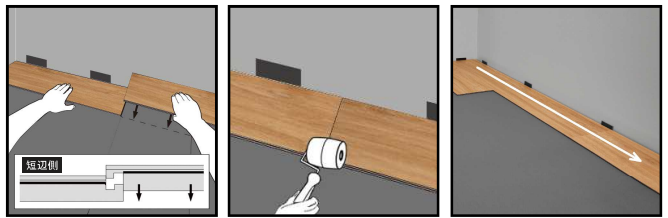
- 1) 床板を施工するスペースのサイズを正確に測定し、バランス良く張りあがるように床板のレイアウトをしてください。床板はなるべくランダムになるよう、短辺側の接合部を隣の列と150mm以上ずらすことをお奨めします。



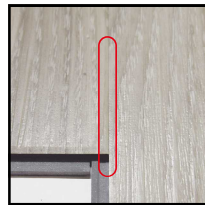
- 2) 壁際より最初の列の床板の位置決めをします。
スペーサーをご使用いただき、必ず壁から5～8mm程度のクリアランスを確保してください。端部クリアランスへのコーキング処理は行わないでください。突き上げや実外れの原因になる恐れがあります。
端部クリアランスを隠したい場合は、専用床見切り材の使用をお奨めします。



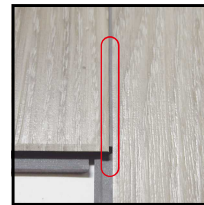
- 3) 床板は四方実になっておりますので、まず短辺側の実を接合し施工スペース内長手方向に1列目を作り、続いて2列目を施工してください。短辺側は実と実をかみ合わせるだけです。ローラーなどを使用してきっちり実を接合するようにしてください。



接合後、目地に隙間がある場合実が正しく接合していない可能性があります。

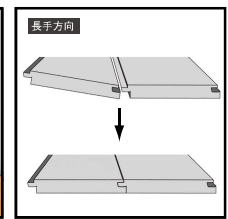
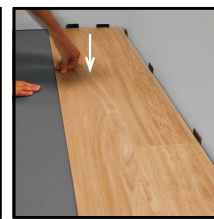
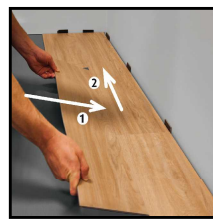
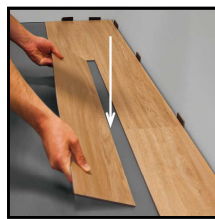


実がきちんと入ってる場合

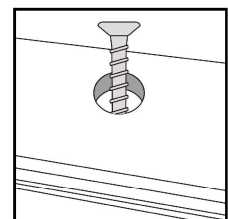


実がきちんと入っていない場合

- 4) 2列目の施工は、すでに施工した1列目と2列目の長辺部の接合部同士を角度をつけて接合し押し込むようにしてください。3列目以降も同様にして施工してください。

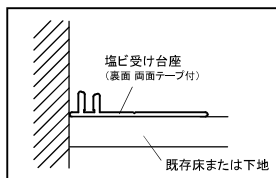


- 5) 見切り材、ドアストッパー、レールなどをウルティモフローリングの上からビスで固定する場合、あらかじめビスの径より大きな穴をウルティモフローリングに明け、ビスとウルティモフローリングの間にクリアランスを確保したうえでビスを打ってください。

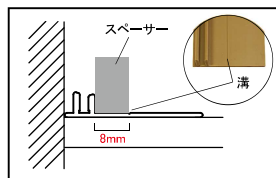


専用床見切り材使用の場合

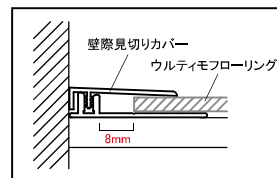
■ 塩ビ見切り



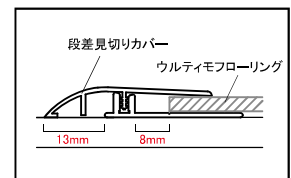
- ①受け台座を下地に両面テープで取り付けます。



- ②受け台座の前にスペーサー(8mm程のベニヤ等)をはさんでから床材を施工し始めてください。受け台座には溝が施してあり8mmの基準としてください。

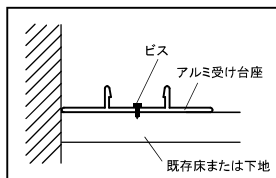


- ③スペーサーを外し、見切りカバーを上からかぶせてください。

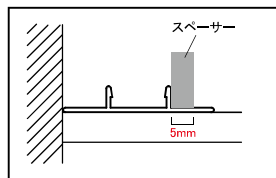


※段差見切りも同様に施工してください。

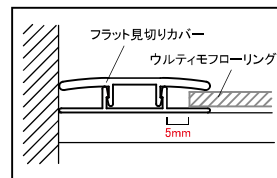
■ アルミ見切り



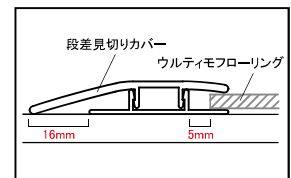
- ①受け台座を下地にビスで取り付けます。(ビスが使用できない下地には両面テープをご使用ください)



- ②受け台座の前にスペーサー(5mm程のベニヤ等)をはさんでから床材を施工し始めてください。



- ③スペーサーを外し、見切りカバーを上からかぶせてください。



※段差見切りも同様に施工してください。

4. その他注意

- 一般的なスチール釘やセメントコート釘、樹脂やロージンのコート釘は床板の変色を引き起こす可能性があります。下地パネルの施工には必ずステンレス釘をお使いください。
- 温風ヒーターなど暖房器具付近はマットを設置するなどして温風が直接ウルティモフローリング表面に当たらないようにしてください。長時間にわたって熱が加わりますと変形、変色の原因となります。